

目次：

横浜市立 万騎が原中学校	P.2
神奈川県立 元石川高等学校	P.3
霧が丘連合地区 自治会	P.4
厚木市 セーフコミュニティ くらし安全課	P.5
神奈川県山手警察署 スクールサポーター 鎌田 尚 さん	P.6
神奈川県警察本部 犯罪抑止対策室	P.7
編集後記	P.8

はじめに

県民の皆様におかれましては、日頃より県内の防犯活動にご協力いただき、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、普段通りの防犯活動や防犯団体同士の交流の機会が制限されているかと思えます。

コロナ禍での様々な防犯活動や今後の防犯活動を考える上で実際に活動を行う団体皆様に参考となる情報を取りまとめ、防犯活動事例集としてここに作成しました。

取材団体としては、目次にもありますが以下の団体種別を取扱いました。

- ◆ 中学校
- ◆ 高等学校
- ◆ 防犯団体
- ◆ 市町村の安全・安心まちづくり担当課
- ◆ 警察署のスクールサポーターさん
- ◆ 神奈川県警察本部

取材にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

編集担当としても考えもつかなかったコロナ禍での防犯活動の工夫がたくさんありますので、ぜひお読みいただき、今後の防犯活動の一助となれば幸いです。

なお、本活動事例集は県ホームページへの掲載及び個人情報保護の観点から一部の記事を除き、写真を掲載していないことを予めご了承ください。



横浜市立万騎が原中学校 演劇部

横浜市立万騎が原中学校演劇部は同中学校に入学をした新入生に対して、演劇による防犯教室を約十数年前から行っています。

コロナ禍の中、令和2年度は防犯教室を実施することはできませんでしたが令和3年度は前年度に防犯DVDを作成し、新入生に視聴させることでコロナ禍であっても防犯教室を実現することができました。今回は、顧問の先生（先）とDVDに出演した出演部員（員）3名の方、また監修として撮影に参加した旭警察署のスクールサポーター（ス）さんに取材をさせていただきました。

Q. 防犯教室を演劇部が担うきっかけを教えてください。

A. （先）十数年前は万引きやいじめなどの事例が多く、警察や地元の環境浄化委員さんと相談し、**子どもの立場から**万引きやいじめの内容を、**劇を通して**伝えてみてはどうかということから始めました。テーマについては時代に合わせて都度変えるようにしています。

Q. 作成したDVDはSNSを題材にしたものですが、演じる際に工夫した点を教えてください。

A. （員1）同級生にヤジを飛ばすシーンがあるのですが、**当事者の気持ちになって**無責任に容赦なく演じました。この経験を活かして後輩に劇を教えながら防犯を楽しく学びたいと思いました。

（員2）保護者役を演じましたが、言動だけでなく、体を丸めるなどの「姿」の見せ方も意識して演じました。劇にすることで客観的に伝えられ、**面白さも混ぜつつ真剣に**取り組むことができました。

Q. （スクールサポーターさんへ）生徒さんの撮影の様子を見ていかがでしたか

A. 長いセリフもしっかりと覚えており、**真剣さが伝わってきました**。また、コロナ禍で活動が制限されてる中でDVDを作って防犯教室を行えたことは今後の土台にもつながるので、ぜひ後輩たちにもつなげていってほしいと思います。

Q. （顧問の先生へ）撮影後、生徒の意識の変化をどのように感じられましたか。

A. 今回の題材は生徒たちにありがちなシーンが多く、**撮影後は個人個人のLINE等SNSの使い方を意識し始めた**のではないかと感じています。

Q. （生徒さんへ）今後の抱負を教えてください。

A. （員3）コロナ禍でも犯罪は無くなりませんが犯罪のない世界にしたいと思いました。また、**知らないうちに罪を犯していることもある**ので、特に身近なことで罪にならないよう気を付けていきたいと思っています。

Q. 今後の防犯教室での抱負を教えてください。

A. 大人も含め**地域のみんで**犯罪に気を付けることを伝えたいと思っています。



神奈川県立元石川高等学校

県立元石川高等学校の More（モア）という団体は「好きなこと、得意なことを活かして社会貢献」をしているボランティア同好会です。コロナ禍以前は地域貢献活動の観点から県警察と連携して特殊詐欺に関する寸劇制作を行っていました。今回はコロナ禍になってから学校生活が制限されている中でMoreの皆さんが地域のためにどのように活動しているか寄稿という形で取材をさせていただきました。

Q. Moreに入部したきっかけを教えてください。

A. （2年More代表）私は、絵を描くことが得意で、入学後はこの**得意なことを活かして何か活動をしてみたい**と思っていました。そう考えていた時、元石川高校の入学説明会でMoreという「**好きなこと、得意なことを活かして社会貢献**」をする団体の話を聞いて、是非とも参加したいと考えたからです。

Q. 防犯寸劇の内容と、寸劇を作るときに参考にした資料などがあれば教えてください。

A. （3年More代表）寸劇の内容は、**高齢者を対象にした詐欺**（オレオレ詐欺や還付金詐欺）や多くの人に知ってもらいたい交通ルールを**自分たちで調べ**、分かりやすい言葉を用いて、短くても誰でも理解できるよう心がけて作りました。参考にした資料は、先輩たちが作成した台本をベースにして自分たちのオリジナルな部分を加えるように努めました。その際には参考文献やサイトを参照するだけでなく、交番にいらっしゃる**警察官の方に取材**をするなど、現場を知っている人に調査もしました。

Q. 今年度の活動実績または今後やってみたい活動があれば教えてください。

A. （2年More代表）今年度のMoreは同好会に昇格し、元石川高校の正規団体として活動しています。活動内容は、4つのチームで、それぞれ定期のラジオ放送やオリジナルグッズ制作、そして**SDGsを意識した石鹸づくり**を行い、地域や環境問題に貢献できるように努めてきました。

今後は、コロナの影響でできなかった**街頭インタビュー**なども積極的にを行い、地域との連携を深めながら、新しいテーマの寸劇の企画などにも挑戦していきたいと考えています。

Q. 地域の皆さん(横浜市青葉区)へ一言

A. （2年More代表）今後も地域に向けて、高校生目線で情報を発信し、高校生ならではの地域貢献活動をしていきます！

月1回の**FMサルス**でのラジオ番組の「**Moreぷら**」も是非聞いてみてください！

※SDGs（持続可能な開発目標）とは、2015年9月の国連サミットで採択された、2016年から2030年までの国際目標です。



霧が丘地区連合自治会

霧が丘地区連合自治会は昭和56年に結成された連合自治会です。

現在は13の自治会で構成されており、昼間の防犯パトロールや連合自治会独自のポイント制導入など、魅力的な活動を行っています。今回はコロナ禍での活動状況も踏まえて、魅力的な活動についても取材をさせていただきました。

Q. 特殊詐欺被害防止対策の一環として行っている昼のパトロールについて教えてください。

A. 連合自治会として昼のパトロールは毎月15日の10時と25日の15時に**独居高齢者世帯への戸別訪問**を行っています。戸別訪問に関しては予め了承をいただいたお宅に訪問しています。

戸別訪問の際には、**ポストの郵便受けが溜まりすぎているかなどを確認**して行っています。

Q. 戸別訪問実施による利用者の方の反応はいかがですか

A. **感謝の声**もいただいています。加えて、遠方に住んでいるご家族の方からも、この見守りに対して感謝の声をいただいております。

Q. 防犯活動維持のためのポイント制について教えてください。

A. 昼の防犯活動参加は1回100ポイント、夜の防犯活動参加は1回150ポイントとしてポイントを設定しています。（1ポイント＝1円換算）

貯まったポイントは、年2回の懇親会で利用できます。これにより、**気軽に負担なく参加できる**と好評です。

10年以上続けている取組で、懇親会を通して交流が深まるといったメリットもあります。

Q. コロナ禍でのパトロールについて教えてください。

A. コロナ禍ではありましたが、**無理強いすることなく参加を募ったところ、ほとんどの人が昼と夜のパトロールに参加**してくれました。距離を空けるなど**感染防止対策をしっかりと**講じた上で普段と変わらず行うことができている。

Q. 県内で同じ防犯活動をされている皆様に向けてメッセージをおねがいします。

A. 私たちは女性の意見を尊重し、**警察や消防の人とも情報交換を行いながら**防犯活動をすることが大切だと思っています。

活動においては**班編成を行う**、団体内で**定期的に表彰**を行うことなどを実践すると、防犯活動を長く続けることができます。



厚木市セーフコミュニティくらし安全課

厚木市では、平成20年からセーフコミュニティに取り組みはじめ、平成22年に国内で3番目の国際認証を取得し、令和3年には3度目の認証を取得しました。「事故やけがは、偶然の結果ではなく、予防できる」という理念のもと、市民協働で様々な取組を展開しています。

その取組の中で「あつぎセーフティーステーション番屋（以下、番屋とします）」について取材をさせていただきました。

Q. 「あつぎセーフティーステーション番屋」について教えてください。

A. 厚木市では、平成19年7月に本厚木駅周辺の体感治安の向上と、犯罪に対する抑止力を高め、市民の方々が安心して買い物などができ、誰もが楽しめる繁華街を目指すため、市民・警察・行政がスクラムを組み地域安全活動を行う拠点として、「番屋」が設置されました。

また、防犯に特化した情報発信の場として、市民の皆様が気軽に立ち寄り利用できるように改装を実施しましたが、施設を周知することが課題としてありました。

Q. 市民の皆様が気軽に立ち寄れるように、ということですが、コロナ禍での人との直接的な接触を避ける中で気軽に立ち寄れるような工夫はされましたか。

A. まずは、番屋の入口前に防犯啓発物品を持ち帰れるブースを設置しました。また、市の施設であることも同時に周知したかったので、屋外に看板を設置するとともに、入口横にモニターを設置し、様々な防犯に関する映像を流しました。

子どもから高齢者まで気軽に立ち寄れるように、道路からでも番屋室内を見えやすくし、興味を持っていただけるようポスター、防犯関連グッズの紹介、冊子等のレイアウトを考えています。

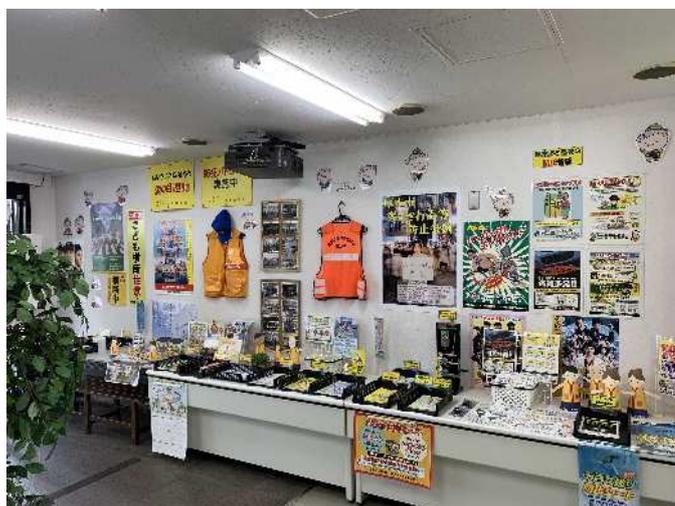
Q. その工夫の成果は現れましたか。

A. コロナ禍であっても徐々に番屋への来所者は増加し、令和3年12月には老若男女合わせて370名を超えました。また、「借りて住みたい街ランキング（首都圏版）（不動産・住宅情報サイトLIFULL HOME'S調べ）」で本厚木が1位になったことから、厚木市に移住を検討されている方も番屋へ相談に来たりと、効果は着実に出ています。

Q. 市民の皆様へメッセージをお願いします。

A. 市民の皆様には本当に防犯活動に熱心に取り組んでいただき、感謝いたします。

引き続き、無理のない範囲で防犯活動にご協力いただきますようお願いいたします。



神奈川県山手警察署スクールサポーター 鎌田尚さん

鎌田さんは山手警察署のスクールサポーターさんです。スクールサポーターさんは、子ども達を事件や事故から守るため、警察と学校・地域をつなぐ活動をしています。元警察官である鎌田さんもその知識と経験を生かし、小中学校での見守り活動など、子ども達の安全を確保するための活動を日々行っています。

当課が実施している、山手署管内で実施しているほぼすべての「子ども防犯指導」に関しても、時間の許す限り参加していただき、ご協力いただいています。

今回は鎌田さんに子どもの様子をいつも見守っている立場で取材をさせていただきました。

Q. 朝の見守り活動を通して、コロナ禍の子供たちの様子はどのように見えましたか。

A. 最近ではコロナの影響か子ども達の元気が無いように感じています。

私は、防犯教室で「**大きな声で挨拶のできない子は誘拐犯から狙われやすい。挨拶は大切。**」ということの説明をしています。どこでも挨拶できるようにするため、学校での挨拶はとても良い練習の場だと思います。見守り活動を始めたころは、子ども達も「誰だろうこのおじちゃん」という感じでなかなか挨拶してくれませんでした。でも活動を続けていくうちに、**多くの子どもが元気よく挨拶してくれるようになり、私が子ども達から元気をもらっています。**今度は私がみんなを元気にさせてあげられるよう、見守り活動を続けて、元気に挨拶をしています。

Q. コロナ禍での鎌田さんの防犯教室について教えてください。

A. 普段は、教室や体育館で防犯教室や非行防止教室を行ってきました。コロナ禍で生徒を一か所に集めるということができないので、**先生方の協力を得て、放送室からテレビ中継で行っています。**子供たちの顔が見えないところが少し寂しいですが少しでもお役に立てればと思っています。

Q. 先日、迷子の子を見つけるお手柄があったそうですね。

A. お手柄ではありません。**スクールサポーターとして当然のことをした**と思っています。

学校から児童が登校していないという通報を受けて、山手署員と共に搜索をしました。**私は各学校の通学路が頭に入っていましたので、そこを中心に搜索し、無事に発見できました。**

Q. 子ども達に伝えていきたいことや抱負はありますか。

A. **とにかく挨拶をしましょう。挨拶は防犯につながるだけでなく、心を開くことだと思っています。**そのためには、我々大人がしっかりと挨拶をすることも大切だと思います。今後も警察と学校・地域の懸け橋となり、子ども達の安全を確保していきます。



神奈川県警察本部生活安全総務課犯罪抑止対策室

最後に、県警察本部犯罪抑止対策室様に、総括も含めて寄稿をしていただきました。

Q. 各団体様に工夫した防犯活動を取材させていただきました。総論をお願いします。

A. 各団体の皆様が、コロナ禍においても、知恵を絞って、工夫をしていただきながら様々な防犯活動に従事していただいていることに**大変感謝**しております。

県警察では、今後も防犯活動に役立てる情報を配信していくとともに、自治体を始めとした防犯ボランティア団体等の**皆様との連携を一層深めながら**、一緒に取り組んでいきたいと考えておりますので、引き続き、子供たちの見守り活動や防犯パトロールなど、各種防犯活動へのご協力をお願いいたします。

Q. コロナ禍の防犯活動として、県警として工夫していることを教えてください。

A. 県警察では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、県民の皆様と直接対面して行う防犯講話やキャンペーン等が制限されていることから、**地元広報誌や回覧板のほか、ユーチューブやツイッターなどのSNSを活用**するなど、高齢者の方に限らず、そのお子さんやお孫さんといった**幅広い世代に向けた広報啓発活動**も展開しております。

Q. コロナ禍の防犯活動として、県警が推奨しているものがあれば教えてください。

A. 県警察では、コロナ禍において、多様な世代や事業者が日常活動の機会に気軽に実施できる防犯活動として、「**ながら見守り**」を推奨しています。

「ながら見守り」は、決まり事はなく、「買い物をしながらか」、「ランニングをしながらか」、「花の水やりをしながらか」、「犬の散歩をしながらか」等、**できる時にできることを、できる人ができるところで危険なく実施していただく活動**です。

不審な人を見かけたり、危険だなと思うことがありましたら、すぐに警察へご連絡いただくなど、お住いの地域で「見守りの目」を増やすなど、防犯の輪を広げていただき、子供たちの安全安心を見守っていただければ幸いです。

Q. 県民の皆様へメッセージをお願いします。

A. 県警察では、犯罪の発生状況や社会情勢の変化に応じて、工夫を凝らしながら、自治体を始めとした防犯ボランティア団体等の関係機関・団体等の皆様と緊密に連携し、**官民一体となった犯罪抑止対策**を推進してまいります。

引き続き、防犯活動への御理解と御協力のほど、宜しく申し上げます。



編集後記



今回、様々な団体の方に取材や寄稿を依頼させていただきました。

お忙しい中ご対応いただいた団体の皆様には感謝申し上げます。

取材をさせていただいた皆様には快くご協力いただき、編集担当者としてより責任感をもって取材をさせていただくことができました。

今回取材をさせていただき、たくさんお話をいただきました。紙面の都合上、載せることのできなかったお話が数多くあります。情報発信の機会ができた場合は、引き続き、県民の皆様にお知らせしていきたいと思っております。

今回、取材や寄稿を通じて以下のことが印象に残りました。

- ◆ 地域と一体になって行う防犯活動
- ◆ 参加しやすく、また継続しやすい防犯活動
- ◆ 市民目線に立ち、誰でも相談しやすい場所を提供し、情報を発信する防犯活動
- ◆ 見守り活動や非行防止教室を通して挨拶の大切さを伝える防犯活動
- ◆ 動画配信やSNSを通していつでも情報を収集できる防犯活動

これらの取り組みは、

- ◇ コロナ禍以前より取組を継続してきたもの
- ◇ コロナ禍になって思案し実践してきたもの

であり、今後も継続して取組むことのできる魅力的な防犯活動であると感じました。

本記事を通して県民の皆様にお伝えすることで、それぞれの団体様の今後の防犯活動の一助となれば幸いです。

くらし安全交通課では、以下の防犯に関する事業などを県警察や県内自治体と連携しながら行っています。

- 地域防犯指導
- 特殊詐欺被害防止事業

今後も県民の皆様へ安全・安心なまちづくりのために県民の皆様が目線に立ち様々な事業を展開していきたいと思っておりますので、引き続き本県の防犯事業へのご理解とご協力をお願いいたします。



使用素材©いらすとや